

沖縄メディカルライブラリー研究会が果たした役割

－アンケートから見る－

濱元 ゆかり¹⁾、仲里 律子²⁾、玉城 希³⁾、宮城 綾乃⁴⁾、久高 千秋⁵⁾

1) 沖縄協同病院、2) オリブ山病院、3) 浦添総合病院、4) 沖縄県立中部病院、

5) 沖縄赤十字病院

【はじめに】

沖縄メディカルライブラリー研究会（以下 OML）は、1997 年に 6 施設からスタートし、現在では会員施設 21 施設（25 名）と増え、会員同士の交流も深まり年 2 回の研修会も充実してきた。昨年 15 周年記念研修会及び講演会を終えたこともあり、ここで OML がこれまで行ってきた活動を振り返り、研究会が果たしてきた役割をアンケート結果から考えてみたい。

【活動内容】

①年 1 回の総会 ②年 2 回の研修会 ③研修会後の懇親会 ④年 2 回機関紙(カラコル)の発行 ⑤雑誌所蔵目録の発行 ⑥HP の管理運用 ⑦事務局会議の開催

【アンケート結果と考察】

会員の経験年数は、1 年未満の 16%を合わせ 5 年未満が 52%に対し、5 年以上の中堅からベテランの経験者が 48%と全体の半数近くいる。それが結果として功を奏しているのか、業務上での疑問や不安の解決方法は「上司へ相談」の 44%について、「OML 会員へ相談している」41%との結果が出ている。入会は役に立っているかの直接的な質問に対し、「どちらかといえば役に立っている」の 5%を含めれば 100%が「役に立っている」と答えている。そのメリットとして「文献複写が無料であること」が 18%、「研修会での講義や講演が役に立っている」ということが細かい設問を合わせ 49%と最も多く、その中でうれしいことに「司書の経験が浅くても基本的な研修が受けられるので安心」という回答もあった。また、答えにくい入会のデメリットについては、少数ではあるが「目録提出が負担」「研修会に参加できない」「初歩的な質問がしづらい」などがあった。「相談しやすい」の対極にある「質問がしづらい」もアンケートで浮き彫りにされた結果で非常に興味深いものである。

【おわりに】

アンケートの結果から現在の OML の姿が見えてきた。OML が果たしてきた役割を振り返り、会員が評価しているところは更に伸ばし、せっかく答えてくれたデメリットに対しては、OML の「黄金の課題」として皆で向き合えるような研究会にしていきたい。